

地方通信



北海道地方

北海道産業道路の計畫成る

北海道廳では重要道路の完成を急ぐの方針で調査を進めつゝあつたが觀光道路の如き不急なるものは之を繰り延べ時局色濃厚な産業道路として登場したその幹線は

一、室蘭、函館線の禮文特開鑿工事費約三十萬圓

一、帯廣、釧路を結ぶ大樂毛、白糠附近の

開鑿工事費約三十萬圓

一、稚内、網走を結ぶ工事費約十五萬圓
で何れも二年乃至三年繼續事業である。

東北地方

青森市待望の三橋竣工を告ぐ

告ぐ

青森縣青森市では二十萬圓を投じ四ヶ年の歳月を費した堤川の三橋其の工事を竣成したので去月二十五日盛大な竣工式を舉行した。この三橋は昭和十七年完成の豫定である漁港計畫實現とともに青森市の中心と新興工業地帯を結びつける重要な橋梁となるわけでこの三橋に堤橋を加へれば僅四町ばかりの距離に四本の橋がかかつて居る、將來どんな交通量が増加しても平氣なわけ

だ。

石盛橋、ゲルバー型鐵筋混凝土、全長七六米、幅員一六米、兩側に二米の歩道を付け前後舗装はアスファルト乳劑、表面はトベカ式アスファルト・コンクリートで高欄、親柱、燈柱は御影石、特徴としては七十度の斜角を持つことと船の交通のため橋側燈をつけた點及び大坂町側の橋臺敷地には綠地を設けた等である。工費豫算九萬三千圓昭和十一年六月十九日着工、昭和十三年七月二十九日完成。

青柳橋 橋型舗装石盛橋と同様で全長六九米二〇、幅員六米九〇、歩車道の區別なく八個の燈柱と左右に待避所を設け、左岸橋臺敷地には柳並木を植樹した。工費豫算四萬四千九百二十圓、昭和十二年五月七日着工、昭和十三年十二月二十八日完成。旭橋 橋型その他青柳橋に同じ全長六六米、幅員八米九〇、工費豫算五萬七千圓、昭和十三年一月三十一日着工、昭和十四年五月二十五日完成。

結局總豫算十九萬四千九百二十圓中約五割の九萬三千七百二十圓を國庫補助に仰ぎ市では十萬一千二百圓を負擔した譯で清算額總額二十萬七百十六圓となつてゐるので差額は一般會計から繰入れることになつてゐる。

東山地方

山梨縣下青梅街道の改修

起工

山梨縣では多年埋もれて居た青梅街道を再び時代の舞臺に登場することとなし甲府青梅線府縣道の改修に邁進し五月十七日縣下東山梨郡神金村裂石地内で其起工鉦入式の舉行した。東京府及本縣下の關係者多數集會し、本縣尾崎土木課長の工事計畫説明、清水期成同盟副會長の経過報告あつて後土居知事立つて發止とばかり記念すべき鉦入を行ひこゝに宿望の青梅線改修は第一

歩を踏み出した。同道路改修計畫は工費總額二百二十萬圓、延長三十九キロで裂石から五郎田まで一キロ工費三萬圓を本年度に施行、五郎田から柳澤峠まで十キロ四十二萬圓を十八年度までに完成の豫定で柳澤峠から縣境までの二十九キロは東京側に於て工費百七十八萬圓を投じて同十八年度までに改修完成の豫定である。

東海地方

三重縣下宇治山田市の道

路鋪裝

宇治山田市では本年度において約一萬圓の經費で宮後町の驛前通り大世古町の神都製紙前通りならびに中島町の小學校傍通りの三ヶ所延長約八百メートルのコンクリート鋪裝を行ふはずであるが、以上の各町を別々に施工すると費用が嵩むので同時に着工することになり目下準備を急いでゐる。

すでに中島町では寄附金を集めて市に提供し大世古町、宮後町でも殆んどまとまつてゐる。六月早々から工事に着手するはずである。なほ同市では近く神社町の合併實現とともに神戸製鋼所の山田工場も同町地内に建設された暁は山田神社線のいはゆる八間道路は東都と神社港ならびに大湊港を結ぶ重要な産業道路となるので、これが改修鋪裝を考慮してゐるが、明年度には、この道路を含めて約七、八萬圓を投じて主要路線の鋪裝を實施する計畫である。

近畿地方

奈良縣下の素人技術に廢

品更生の架橋成る

奈良縣宇智郡南宇智村大字靈安寺領どだん阪古田川の架橋は同村でも十年來の久しい懸案であつたが、村財政の關係上遂に實現にいたらなかつた。ところがかねて村人の

熱望を知つてゐた同村収入役柏田義雄氏（三十六年）は今春同村縣道丹生川筋下田橋の架け替へによつて約二千貫の古材を生じたのに着目、縣土木課五條出張所と談合して譲渡を受け、どさん阪橋の架橋を計畫自ら溪谷を測量の上、苦心の設計圖を作つて宮田村長に見せたところ見事な出来榮えに同村長も喜び、とりあへず村からセメントその他の材料費一千圓を支出することを承諾、その餘は靈安寺區の勤勞奉仕による總親和で實現させようと四月九日村直營として着工、當の柏田收入役は晝は技師兼現場監督、夜間は村の仕事をするといふ晝夜兼行の精勵ぶりを見せ全區民四百五十工と村小學校兒童の協力でこゝに一人の經驗者を加へずして長さ三十六メートル、幅三・五〇メートル、水面よりの最高十二メートルの立派な橋をほとんど竣成、村の素人技師に凱歌はあげられ六月五日晴れの渡橋式を舉行することになつた。これを請負工事にする時は五千圓以上を要し、また架橋の

結果阪路とカーヴをなくし距離百メートルが短縮され區民は大きな利便を受けるわけだがこれについて當の柏田氏は「村長が土木に明るいので」と功を語らず、宮田村長も「いや柏田君の全く熱意です」と同君を推賞し相互に謙讓のうるはしい襟度を見せてゐるのも奥ゆかしい。

奈良縣下一大觀光自動車

道路の建設具體化す

奈良縣上市から大峰山を経て天下の絶勝奥瀨峡に沿ひ和歌山縣北山村にいたり、さらに三重縣領の北山川々岸を縫つて新宮市に達する自動車觀光道路が地方民多年の宿願が届いて、いよゝゝ具體化せんとしてゐる。このコースは現在奈良縣上市から同縣下北山村小口を経て三重縣木本町まで聯絡してゐるが、新計畫によると小口から更に分離して奥瀨峡に沿ひ、和歌山縣北山村大字大沼に至るものでこの間四里を北山村が觀光道路として近く改修しようといふので

ある。そして北山村から新宮市までは三重縣南牟婁郡神川村地内約一里を改修して御濱街道と聯絡するはずで、これは三重縣が觀光道路として本年度中に改修にほゞ決定してゐる。完成すれば大和大峰、瀨峡、北山、木本、新宮の循環コースが出来るわけで、觀光は素より地方産業開發の上に一大福音とされ各方面に期待されてゐる。

大阪府堺市の街路樹は嘆く

堺市では市土木部を中心に府提唱の綠化運動に加盟し綠化につとめてゐる折から、皮肉にも街頭や公園の綠樹が枯死したり盗まれたりするので市土木部公園係ではこのど全市内の綠樹調査を行ひ五日その結果が判明した。これによると枯損の最も多いのは御陵道筋で、昨年十月櫨一〇〇本、ネズミモチ三二〇本、マサキ三二〇本、トベラ一〇〇本、モクコク一〇〇本、合計九四〇本を植ゑたのが早くも櫨二〇本、ネズミモチ三九本、マサキ二五〇本、トベラ七二本

モスコク六二本、合計四四三本といふ約半分も駄目になり、そのうち二百本は盜難の痕があつた。沙穴街道では高さ十五尺のプラタナスを植ゑたところ一週間後には根元から支への杭までなくなつてゐた。大濱公園では平戸二五〇本を植ゑた、翌日すでに三十本がなくなつてゐた。最近では妙國寺の北側、三寶向陽線の街路樹十五本が支柱もろとも折られ、その翌日は根こそぎ引抜かれ附近のマンホール内に投げこまれてゐたので公園係もあまりの慘狀に開いた口がふさがらなかつたといふ。公園係ではこの慘狀の復舊にかゝるとともに五日府都計道路課に通知し街の綠樹保護につき府の積極的協力を求める一方、市民の愛木精神を喚起するため各小學校と聯絡して學童を通じて全市の家庭に呼びかけ、綠樹ゲ・ペ・ウを派遣し、綠樹保護に當ることになつたといふ。公德心の缺乏も恐るべきかなである。

和歌山縣下の會津橋の形 見石柱が儒者顯彰の標柱 と化す

和歌山縣下田邊町會津橋は明治二十二年の大水であとかたもなく流失した。その際深底深く埋没した高さ一間餘、重量二百貫の圓柱形石造欄八本は町會議員尾崎象三郎翁らの盡力によりすでに七本發掘され舊臺場入口の標柱、辨慶出生地標柱その他に使用されてゐるが、こんどその一本をもつて明治時代の儒者故湯川退軒翁の育英事蹟を顯彰するため門下生ら相ばかり田邊第一小學校内へ建設の「有終塾之址」の記念碑に使用することになり碑銘の彫刻はあと廻しとして取敢ず校内へこれを建立した。退軒翁は和漢の學に通じ漢詩、和歌、俳句、川柳などをよくし小學校員を退いてから自宅（前記田邊第一校内建碑のところ）に夜學校「有終塾」を開き漢學を教授したがその門下生は實に千人餘に上り明治三十三年六

十二歳で歿した有名な儒者である。

中國地方

島根縣下の縣道改修の吉報

島根縣の縣道改修が報せられた。その第一は縣民の感謝をここに集め現在工事中の國立松江傷痍軍人療養所に通ずる道路、廣江市津田街道交叉點から療養所にいたる七百六十六メートルの區間を現在幅員五メートル五〇を九メートルに松張、全面鋪裝の車道、人道別に改修「療養所道路」として面目を一新する。その第二は、濱田聯隊道路、濱田驛から濱田橋を經由陸軍病院にいたる一千二十三メートルを現在幅員五メートル五〇を十メートルに擴張、全面鋪裝をする。その第三は平田莊原線、平田町灘分源立寺橋から莊原にいたる一千百九メートルを現在三メートル五〇を五メートルに擴張。その四は安來、三成線比田村地内七百

メートルの區間を幅員五メートル五〇に改修、最後は松江、美保ヶ關線、森山地内一千二十メートルを幅員現在三メートルを六メートルに擴張するのであるが、この改修工事は區間中の下宇尾部峠の二百メートルのトンネルを開鑿する難工事を含めてをりこれが五線の改修費二十二萬圓、中七萬二千圓國庫補助、殘額は縣と地元の折半でいづれも来る六月初旬着工、森山地内のトンネル工事を除き他は全部明年五月中に完成の豫定である。

廣島縣優良修路工夫の表彰

廣島縣に於ては毎年度一回修路工夫選奨規程に基き特に勤勞成績優良なる者の選奨を行つてゐるが、昭和十四年度に於ても前年度中の成績優良者五十名及選奨三回以上の者九名に對し六月一日より三日迄三日間縣下十一ヶ所の各土木出張所管内別に宮崎土木部長、三宅道路課長以下森道路技師、岡本道路主事、金光道路技師等五班に分れ

之が選奨式を舉行した。尙當日は右の内より永年勤續し其の功績顯著なる者左に七名に對し道路改良會長より表彰狀及功績章並木杯を授與せられたるを以て併て之が傳達式を舉行した。

記

廣島縣修路工夫	渡邊 敷一
同	野原 高男
同	後藤 富司滿
同	佐藤 教市
同	廣田 二一郎
同	牛尾 高雄
同	落井 和市

四國地方

昔に返る阿波の蔓橋

徳島縣が世に誇る奇蹟として天下にその野趣的景觀を謳はれてゐる美馬郡西祖谷山村善徳の祖谷川に架設されてゐる蔓橋は、

最近腐朽して昨年から通行は絶對不可能で僅かに昔日の殘骸を止め狐影悄然たる有様で、奇勝蔓橋を慕つてわざ／＼峻険を冒して来る觀光客を失望させてゐる。この祖谷景觀の生命線の SOS に附近住民間に復興が叫ばれてゐるたがいよいよ祖谷溪保勝會では金三百圓の改修費を投じて根本的に修理學校、團體の觀光客のおしかける八月の暑中休暇までに奇勝蔓橋を再生せしめることに決定、近く善徳青年團や村民總がかりで工事に着手することになつた。

香川縣二十三號國道路線の改良

香川縣八十萬縣民が待望せる丸龜、高松間の國道二十三號線はいよ昭和十四年度事業として宇多津町小學校横から同町宇字夫階と西横町同海岸通り三又路までの延長六百六十メートル(この内譯道路五百九十七メートル、橋梁六十三メートル)を總工費十萬圓で幅員九メートルの坦々たる道路を

新設すべく、其の起工式を六月七日宇多津公會堂において舉行した。同工事は内務省の直營で行ふため宇多津町驛前に内務省香川國道改良事務所が設けられた。高松丸龜間の總工費は百七十九萬六千圓である。愈々家屋その他道路豫定地の買収に着手する。工事にあたつては堅實な工事と關係地元に多少でも金を分散させる意味から、工夫は地元の労働者を雇ふことになつてゐます。

香川縣縣道改修の計畫

香川縣下讚岐路における十四年度指定府縣道改修工事箇所は次の五線延長一萬五千三メートル、總工費二十四萬一千圓と決定近日中に着工の豫定で近代的明粧道路は東に西に伸びる。高松脇町線のうち香川郡太田村佛生山町地内延長千六百八十七メートル、幅員七メートル△多度津詫間線のうち仲多度郡日方村ならびに三豐郡大見村地内延長千五百メートル幅員六・五メートル

△仁尾觀音寺線のうち三豐郡仁尾町地内延長八百七十七メートル、幅員六・五乃至七メートル△愛國高松飛行場線(香川郡鼓打村地内)延長七百八十一メートル、幅員七乃至十メートル△高松、琴平線のうち香川郡圓座村、川岡村綾歌郡昭和村陶村地内延長五千二百六十八メートル。

高知縣下小學兒童に依り 物語る道路愛護の體驗

高知縣長岡郡大篠土木出張所においては先に管内各小學校兒童を通じて道路愛護運動に對する認識とこれまで數回に互り體驗せるその效果等を知得し將來に資するため構想よりも實感を主とする作文を募集する事とし尋常科五、六年高等科一、二年を通じて一校四點を採擇するものとし學校長の選定送付せしものは何れも入賞する事とせしがこの程その優良作が多數届けられ大篠土木出張所および縣土木課にて嚴選の結果左記の分が受賞されることとなつたがこれ等名

作の中に盛られた純眞にして眞摯なる兒童と直接指導者との融和美が明瞭に表現せられ居るは實にこの舉にこの舉によつて得られた大收獲である。

受賞者の學校と氏名

特優 上韭生五堂小學校高一男

優 久禮田小學校高一女 池村 龜 治

優 上韭生村五王堂學校尋五女 近藤 登 美 子
川 村 道 子

優 久禮町小學校尋五男

美 崎 明

優 大篠小學校尋五男 刈 谷 浩 三

良 介良小學校高二男 十 河 四 郎

同 十市小學校高二女 北 村 富 子

同 鏡野小學校高二男 橋 詰 幸

同 同 高二男 小 川 豐

同 介良小學校高一女 濱 田 町

同 野市小學校高一男 井 上 義 高

同 大篠小學校尋六男 大河原晴二
同 介良小學校尋六女 山野内千恵
同 野市小學校尋五男 野口光彦

【特優】

道路愛護日

五王堂尋常高等小學校高一男

池村龜治

二月二十三日、空は快晴、あつらへむきの勤勞日和、その日こそ僕達上韭生村の道路愛護會日で村民總動員で勤勞報國をしようといふのだ。村民は定刻を目ざして續々と、五王堂の校庭に集る。小學校は前日から四班に分けそれに青年勤勞報國隊老若男女の村民を加へて中々のにぎはしきだ。やがて定刻がくると、總指揮の重任をおびた校長先生の威勢よい「氣を付け」の號令が朝の静けさを破る。東方遙拜にうつゝ遙に宮城を拜みつゝ「今日も一日銃後の護につとめます」と心の中で誓つた。つゞいて一分間の黙禱をさしあげる。眼を閉ぢて戦線の勇士の武運長久と白衣の勇士の全快を祈

り護國の英靈となられた方に感謝の意を表して目を開くとあたりはしーんとしてせき一つきこえない。

「君が代は千代に八千代に……」と一同の音波が幾山河をこえてはるかに、かしこき帝都へとどくであらうと、おごそかな氣分がわいてくるのを感じた。道路は國の生命線即ち血管であるからきれいに大切にしなければなりません」との言葉を皮切にいつも乍らはりきつた校長先生の作業に對する御注意があつた。嚴肅な式も一先づ終つていよゝこれから作業場へ向ふのだ。僕は第一班で班長は濱口先生である。各班長は第何班とかいたハチマキをしめて緊張してゐられる。五王堂校の作業區域は起點終點の旗印で示すことにしてある。その旗も風になびいてゐる。愈々出發だ。愛國行進曲の聲も山にこだまして朝の空気をふるはしていく。めいめいがほうき鍬を銃式にかついで、足並そろへて進んでいく所はまるで出動部隊のやうだ。起點の白谷へつくと各

班で位置につく。作業は絶對無言である。指揮官の命で作業に取かゝる。一齊に鍬が動く。鍬の音が交錯する。みんな一心不乱だ。時々石が林の中を通つてかさゝと谷間へころがっていく。白谷川の澄んだ水ががうゝとうなつて一同を應援してゐるやうだ。みんな精出してゐる。僕も負けるも

のかと鍬をふるつた瞬間固い石に鍬をあてゝ手がしびれる程痛かつたが、がまんしてつゞけた。戦線の勇士の勞苦を思ひながら持場の仕事に精出す。校長先生も上着をとつて頑張つてゐられる。折々班長の注意指圖の聲が耳へ入るばかり、みんなぬくもつたらしくほほがほつてゐる。鍬組は凹凸になつた所を修繕していく、箒組はその上をなでていく。整理係が十分に整理する。一箇所がすむと順々に移動して作業をつづける。ほんとに面白い程工事ははかどつていく。校長先生が先をや見てゐる組をよんで後の仕上をまはらせた。用意も行届いたつのだが指揮のうまいのに驚いた。あち

らでもこちらでも感心してゐる。人が通る、自動車が来る、マンガンのトラツタが往く。おかげで片端から固まつていく。うまい具合だ。道具の音は相變らずひびく。總力の結果道路は見ちがへる程美しくなつた。何となくうれしい。午前中に豫定の區域がすまなかつたので晝食をした。汗を流したあとだからそのおいしかつたこと。お晝過から再び作業にとりかゝつて終點迄作業を續けていく。石を運ぶ、砂をかく、鍬でけづる、一休みして元氣をとり戻したのではかどつていく。道を行く人は言合はした様にほめて下さる。いつも道路で働いてゐる工夫さんがほめて下さつたときは嬉しくてみんなににこにこしてゐた。僕も嬉しさがこみあげて來た。午後三時、作業を終つて隊伍を組んで凱旋將兵のやうに校庭へ集合した。校長先生から作業は中々眞剣にやれたとの講評があつて一同解散した。僕は美しくなつた道路を眺めて共同の力の大きいことに驚くと共に、この時局に國民一

致の必要をつくづく感じた。解散した後で縣の學務部長さんが視察に來られて大層御喜びになつてゐたことを聞いて一層嬉しなつた。先生も生徒も村人も共に汗を流した道路愛護の日よ。流汗の後のあの歡喜。僕達の思出の一つとして永久に印象に残るだらう。

九州地方

福岡縣下交通量調べの結果を見よ

福岡縣道路課ではさる五月十一日から十三日まで三日間にわたり十五の各土木管區を總動員して、縣下百六十四ヶ所の主要箇所で交通量調査を行つたが、その結果を十三日集計したところによると、一晝夜平均の縣下でいちばん交通量の多いのは、八幡市通町七丁目中央交叉點で、第十位までの交通量を示すと左の通りである。

第一、八幡市通町七丁目 四五・三三三

- ▲第二、福岡市東中洲 三四・四七六 ▲第三、小倉市大坂町一丁目田川銀行前 二八・七七 ▲第四、門司市山城屋前 二五・一三四 ▲第五、大牟田市有明町 二一・三四八 ▲第六、福岡市天神町郵便局前 一九・三七五 ▲第七、久留米日吉町 一七・六三九 ▲第八、福岡市吳服町 一六・九五〇 ▲第九、若松市本町五丁目 一五・二二一 ▲第十、福岡市出來町國道踏切 一一・九九七
- これを交通種類別にみると、歩行者は八幡市通町七丁目六五・〇三〇がいちばん多く、次いで門司市山城屋前の三八・一四六 福岡市東中洲の三三・八三三、人力車は福岡市東中洲八十六がいちばん多く、姐さんたちの繁昌ぶりをあらはしてゐる。自轉車は福岡市東中洲の一・四七一がいちばん多く出前持ちのあはたさい往來をあらはし、次いで大牟田市有明町一〇・四六二、久留米市日吉町一〇・〇〇八などである。自動車のうち乗用車は東中洲の二・〇一六がいちばんで、次いで八幡市通町七丁目八

八六、久留米市日吉町の八八二などである。トラックは八幡市通町七丁目の六四七がいちばんで、次いで門司市山城屋前四六二、小倉大阪町一丁目田川銀行前四五七などである。

佐賀縣内道路に對する知事の感想？

新佐賀縣知事加藤於菟丸氏は「ヤア知事商賣つてやつはむつかしいもんだといふことが判つたよ」と冒頭しながら「學校は場所その他環境に恵まれてゐるのはいゝと思つたね。かうも條件が備つてゐる以上残るは學校職員の努力により「魂」を吹き込むことだ。道路はあまり感心しない。要は縣民各位の公徳心に訴へ道路愛護につとめて貰ひたい。各人一人々々が家の前の道路を清掃し愛護すれば效果頗る上るものがある」と考へる。他縣では縣令でこれをやらせてゐるところもあるが、まづ七十萬縣民めいゝの力でなし遂げたいものだ。河川の底

が泥であるのは憂鬱だ。このヒドロが縣産業振興のために相當障害となつてゐるのではないかと考へられる。衛生上にもどうかと思ふが、これを改良するのはなかなか大変だと聞いた。嬉野方面の省營バス、また

鐵道問題は地元も大乗氣ではあるし非常に便利ともなるので長崎縣とよく打合せ提携して實現に進みたい」と物語られた。之が初巡視の感想である。

祝國道關門隧道起工

古河順治

○潮はやみ流るゝ瀬戸の底岩に

人の行く隧道掘り抜かむとす

○早軛の底つ岩根を掘り穿ち

隧道つくるてふ大いなる業

○いや高き土木日本の誇りなる

潮早軛の底を行く隧道

○天地のもろ神まつり海底の

たくみの業に幸あれと祈る

(昭和十四年五月十二日)